



第2号

発行日 令和3年5月

東中田地区 社会福祉協議会

あいさつ

東中田地区社会福祉協議会

会長 杉山 光一



令和二年度はコロナ禍の中で、改めて

生命の大切や、新しい生活様式の模索など様々なことを考えさせられた一年でなかったかと思えます。その中で、三つの大切な活動の内、安否確認活動、生活支援活動は自粛ムードの中各町内会の福祉委員の皆様にご尽力いただきました。又、サロン活動は例年だと七〇回ぐらゐ実施されるところ一七回にとどまりましたが、サロン会は「居場所」つくりであり、他の方とつながりを持つということ

で大きな意味があると考えています。さて、東日本大震災から十年を目前にして令和三年一月一三日午後一時八分、一〇年前を思い起こさせるような地震に見まわられました。改めて日頃の備えが大切だと痛感させられました。

当社協では太白区社協の助成を受け「安全・安心の東中田」を目指して令和元年度、二年度ほつとネットin東中田との協働事業として取り組んできた「いつとき避難場所」のプレートの取り付け、避難場所・避難施設等の「助っ人マップ」作製が完成し各関係者に配布させていただきました。これからも協働で実施できることがあれば実施していきたいと思います。

結びに人生一〇〇年時代の到来などと

いわれていますが、令和二年度各町内会で開催の敬老会における七五歳以上の方は一、六三六人でした。いよいよ健康第一で充実の毎日であることをご祈念申し上げます。

このコロナ禍の中ご協力、ご尽力賜りました関係団体、多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

東中田地区ボランティア

福寿会

会長 吉田ヤス子



福寿会はボランティア団体として昭和五五年中田地区（西中田・柳生地区を含む）で発足し活動しておりましたが、平成一七年に東中田地区ボランティア福寿会として新たに発足しました。当地区は福祉にやさしい街ともいわれ各種福祉施設が多い地域です。少しでも心のよりどころになればと訪問活動を行ってまいりましたが、今回の新型コロナウイルス感染症の影響は大きく福祉活動も縮小されているのが現状です。

収束が未だ見通せない状況の下、今私達会員で出来る事はないかと検討し、思いついたのが、マスク作りでした。昨年五月頃は、マスクが一番不足しておりましてので、五月中旬〜七月末まで約二ヶ月半、週二回作業し、総数約一、三〇〇枚作りしました。現在訪問活動を中止している各施設に寄贈させて頂きました。これからも私たちができる事はないかと

模索中ございます。感染症対策に心を配りながらこの状況を乗り越えていけたらと思っています。これからもご協力よりしくお願い申し上げます。

東中田地区民生委員
児童委員協議会

会長 今野 利夫



地域の身近な相談・つなぎ役として活動している「東中田地区民生委員児童委員協議会」です。委員定数は一八名で東中田地区内を担当。地域の隣人として地域住民の福祉に関する相談に応じ、行政や専門機関と調整するなど、誰もが安心して暮らせるよう、身近な相談・つなぎ役として活動しています。

令和二年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、多くの人が働き方や生活様式の変更を余儀なくされました。当協議会も定着していた地域住民とのふれあいサロン「みんなのカフェ」と銘打って年三回（一回二会場）の開催や学校・地区内各種福祉施設等との交流会、他都市との情報交換の場でもある移動研修会なども、新型コロナウイルスの影響で感染拡大防止のため、多くの行事計画が中止せざるを得なくなりました。

日常活動の中でも手洗いの徹底、咳エチケット、マスクの着用等感染拡大防止に留意しながらの訪問。ソーシャル・ディスタンス（社会的距離）は重要ですが、心の距離は密にしていきたいと思っています。今日であります。また、三月一日で東

日本大震災発生から十年。震災の体験と教訓を語り継ぐことが大切であり、そんな思いを持ちながら民児協活動が続けていきます。



左記は、全国民生委員児童委員連合会ホームページから引用。

民生委員・児童委員は、地域福祉の担い手として、住民個々の相談に応じ、その生活課題の解決にあたるとともに、地域全体の福祉増進のための活動にも取り組んでいます。

災害に役立つ「助っ人マップ」

ほっとネットin 東中田

代表 小岩 孝子

誰もがどこかでつながっている東中田を目指して、地域福祉活動を継続してきました。昨年は東中田地区社会福祉協議会の「安全・安心なまち事業」に協力し、「いつとき避難場所」や「頑張る避難施設」の看板を作成し、東中田町内会連合会と共に、三位一体となつて看板取り付けを行い、新たな安全・安心な協働の地域が誕生しました。

今年は東中田地区社会福祉協議会の「安全・安心なまち事業」二年目活動として災害時に役立つ「助っ人マップ」を完成させようと運営委員会や定例会で意見交換し、震災から十年目の「三・一一」



には東中田地区の学校や福祉施設、地域施設などに提示されます。「助っ人マップ」は地域ネットワークの各施設・指定避難所・補助避難所・いつとき避難所・がんばる避難施設・救命処置用のAED設置場所などを入れたマップです。みんなで活用しましょう。

私たちのまち東中田地区は町内会連合会、地区社会福祉協議会、地域福祉ネットがつながって「共に生き、支え合うまち」を築いていくとすでに動いています。地域の一人ひとりが「伝え合う・認め合う・支え合う」ことを大切にして、国が進めている「地域共生社会」の実現に向け進んでいきましょう。これからもよろしくお願ひします。

地域福祉活動推進委員

菅原 久子



令和二年四月推進委員を受け、地域の関係者や福祉機関の皆様と連携し、当地区の福祉の推進に努めています。

「顔を合わせておしゃべりに花を咲かせて笑い合う、そんなひとりが嬉しくて楽しい」という声が聞こえる当地区の「サロン」です。少子高齢化が進んだ今は、つながりと支え合いに、大事な役割を持っています。コロナ禍により今年度開催は十七件と昨年の半分

以下でしたがその一部を紹介します。

(一) 内は参加者数です

- ① シェイプアップサロン (一二人)
- 健康体操・地区の桜の名所めぐり
- ② 仲良しカヒエ (三〇人)
- 話し合い「コロナ下での生活について」
- ③ 悠々サロン (三〇人)
- 町内会長講和講座「ヒートショック」
- ④ にこらく健康クラブ (三七人)
- ストレッチ・ドレミ・キョット体操

どの会も参加者はしばらくぶりの顔合わせに笑顔いっぱいとの事でした。いづれも三密を避け、検温・手の消毒・時短・マスク着用等コロナ感染に気を配り乍らの開催でした。色々な形の地域の集いは心と体を元気に豊かにしてくれました。町内会役員、福祉委員、ボランティアの皆さんのお力添えに感謝しています。

こうした集いを通じた地域の方々の出会いはお互いを身近に感じ、思いやりや助け合いの気持を生み、日頃の声掛けや見守りに発展していくと思っています。住んでいる地域で安心・安全に楽しく暮らすことは皆さんの願いです。高齢の方や障がいをもつ方への気遣い等の優しい支援の輪が広がって欲しいと思います町内会長さん、福祉委員さん、民生委員さん、そして関係機関の皆様と一緒に今後は努力してまいりたいと思います。

東中田地区社会福祉協議会

役員名簿

会長	杉山 光一	落合会長
副会長	今野 功	新田会長
副会長	今野 利夫	東中田民生委員 児童委員協議会
常任理事	千葉 幸毅	袋原東会長
常任理事	千代窪 養治	交友会会長
理事	菅井 勝之	四郎丸会長
〃	柴森 則夫	扶桑会会長
〃	遠藤 勇次	大宮会長
〃	丹野 義洋	袋原会長
〃	石戸谷勝則	親睦会会長
〃	飯田 康	吹上会長
〃	菅野 冷子	民生委員第一
〃	今野 正子	民生委員第二
〃	伊藤 長光	民生委員第三
〃	岩佐 和子	民生委員第四
〃	工藤 房子	民生委員第五
〃	坂田 祐子	日本赤十字 東中田奉仕団
〃	東中田地区老人クラブ連合会	
〃	吉田 ヤス子	東中田地区 ボランティア福寿会
〃	小岩 孝子	ほっとネットin 社会福祉法人
〃	齋藤 信子	仙台ビーナス会
監事	遠藤 博之	さつき会会長
〃	菊地 康	東四郎丸会長
会計	今野たい子	扶桑会
庶務	高橋 廣	東四郎丸
ボランティア・協働事業推進委員 吉田ヤス子		
地域福祉活動推進委員 菅原久子		